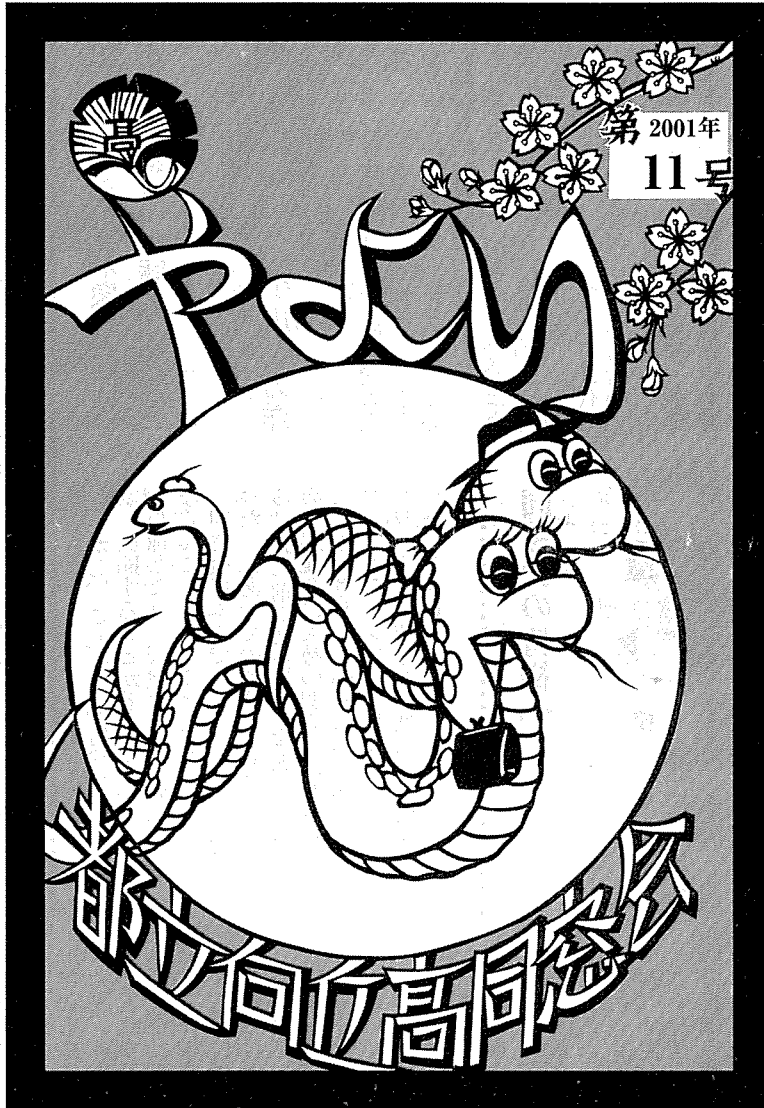


切り絵作家
稲葉
祐吉
作



同窓会のご案内

やよい

発行責任者
都立向丘高校同窓会
会長 小川力洋
編集 会報委員会
事務局 〒113-0023
東京都文京区向丘1-11-18
向丘高校内
TEL 3811-2022
FAX 3812-4055

平成13年4月22日(日)

① 総会記念作品展 “切り絵作家 稲葉祐吉展” (本校卒業生)

湯岳天神、雷門他 原画10点 (全紙大723×530mm)

【出展時間】 12:00~17:00 【場 所】 母校6階ホール ※入場自由

② アトラクション・ジャズコンサート

出 演：明治大学ビッグサウンドソサイエティオーケストラ

〈11頁に演奏風景の掲載があります〉

(山野ビッグバンドジャズコンテスト→最優秀賞受賞
浅草アマチュアジャズコンテスト→グランプリ受賞
ワシントン州ライオネル ハンプトンジャズフェスティバル→最優秀賞受賞)

曲 目：スタンダードナンバー (カウントベイシー、ライオネルハンプトン、ガーシュイン作曲等) 他ポピュラー曲多数

【受 付】 13:00

【演 奏】 13:30~14:30

【場 所】 母校6階ホール

【対 象】 会員、在校生、父母、一般 ※入場自由

③ 総 会 15:00~

【場 所】 母校6階ホール

④ 懇 親 会 15:45~17:45

【場 所】 母校6階ホール

【参加費】 ¥3,000 (但し平成12・13年卒業生は¥1,500)

【申込方法】 4月16日(月)迄、振込完了願います (同封の振替用紙ご使用下さい)

16:30~向丘フォークソングラバーズソサイエティの演奏や抽選会があります

御挨拶

奇想天外から将来像を期待
縁ある母校に一層の関心を



同窓会長
小川 力洋

幸なるかな母校の入試志願者は急増の実績を示して来ている。卒業生にとっても、母校が名声を轟かすことは自らのこころに弾んで頼もしい限りである。

去る三月七日(水)同窓生を代表して、例年どおり卒業式に招かれた開式の辞、そして校歌斉唱から国歌斉唱となる、約一割程の生徒は着席した。(開式前に君が代斉唱については個人の自由としている旨のアナウンスがあった)

卒業生総数六クラスで二二三名が一クラス毎に一人ずつ呼名される。一組が呼名され出すや、中の一人が上下服を脱ぎだした。みるみるうちに唐草模様つなぎ着衣となり頭まで帽子を被る姿となった。しかも、その彼がクラス代表で壇上に出た。証書授与後も会場全員に受けを振舞っていた。

続いての生徒は、授与後直ぐさま、二三人の仲間が自列から駆け抜け、クラッカーで祝ったり、スナップ撮りをした。サンマの仮面を被って(感心にも授与時は仮面を脱いでいた)の登壇した生徒、更には壇上で授与後一礼時に、ズボン落しをした生徒達がクラス代表者の態度だった。

従前からクラスで相談していたとか、当日考えたと言われていたが、最後に記念にしようというのか、ハロウィン気取りなのか、正直いつて私には、戸惑いがあった。

しかし、これからの時代はこれらを容認・展開することが若き自由のアイデアを生む糧となり、天機(天啓)の培養・発想への礎とならんことを祈ることとした。

同窓生は本年度で通算一六、二〇四名となった。縁あつての通過点としての母校である。常に前向きに門戸を開いており、総会・懇親会に大勢の関心が波及され、気軽にご参加されたく願うものである。本年はアトラクションに、本格派のジャズメッセ・ジャズをお招きし、楽しい一時を共に過したいと企画した次第。乞期待!!

同窓会の皆様へ



校長
北村 正生

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は小川会長を始め、皆様には本校に對しましてご理解とご協力をいただきまして、大変ありがたく思っております。

ここ数年、本校への入試倍率の高い状態が続いておりまして、中学生の本校に寄せられる期待にしっかりと応えるよう、教職員一丸となつて力を注いでいるところでございます。本校に對する高い評価には、同窓会の諸先輩のご活躍が大いに係わっていることと思っております。

ところで、二月で新校舎を使い始めて四年経過しました。この三月の卒業生(五十三年卒業生二二三名)は、プレハブ校舎の

経験がありません。

学校の界限は、文教地域とは言つても、なんせ利便性の点から高層住宅が雨後のたけのこのごとく建築されておりますが、なんと、本校の東隣りにもマンションが立つことになりました。

現在は東京電力が駐車場としておりまして、昨年末にポーリングをしておりますが、計画では急ピッチで進められております。計画では今年の六月に着工、平成十五年二月に竣工、地上十四階で本校より十八メートルも高いものです。学校としても様々な対応をしておりますが、同窓会でご利用いただいております六階からのあのすばらしい眺望も、今年が最後になってしまうかもしれません。

さて、ご承知の方も多いかと思いますが、十三年度から全都立高校では、地域の方々を構成メンバーにした「学校運営連絡協議会」を設置し、開催いたします。学校をいろいろの面から観ていただき、学校に對するご意見をお寄せいただくのが目的ですが、同窓会からも構成員にお入りいただきます。是非、後輩達のためにお力をいただければうれしく思います。

最後になりましたが、同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。

向丘高校近況報告



教頭
清水ゆかり

新校舎から四年目を迎えた向丘高校の状況についてお知らせします。

一、入学選抜について

本年度は推薦入試が一月三十一日、一般入試が二月二十一日に実施されました。推薦では男子四・二〇倍、女子九・四八倍、一般では男子一・六九倍、女子二・六八倍で都立普通科の中では男女ともに非常に高い倍率でした。

特に、他学区(四学区以外の学区)から受験する女子の倍率が高く、昨年度から他学区からの入学者枠を四割に拡大しましたが、それ以上に希望者が増えました。近代的な校舎と交通の至便さ、そして自由な中にもけじめを大切にする本校の教育方針が評価された結果かなと受け止めております。

また、男女の定員について、本校は、募集人数の九割までは男女別に合格者を決定しますが、残りの一割については男女を合わせて成績のよい順に合格とする男女枠の緩和を昨年から取り入れております。その結果、平成十三年度の一、二年生は女子生徒が男子生徒より多くなりました。

二、卒業生の進路について

三月七日に卒業式が行われ、二二三名の卒業生が向丘を巣立ちました。その時点での進路状況ですが、四年制大学七十名、短期大学二十一名、専門学校六十名(以上延べ人数)就職内定者五名となっております。大学進学者数が増え、就職者が少ないのが近年の傾向です。

三、IT講習及び公開講座の実施について

念願だったMM室のコンピュータが更新されることになり、これに伴って本校でIT講習及びコンピュータを使用する公開講座を実施することになりました。工事の関係から九月からの開講ですが、詳しくは都の広報等でお知らせしますが、ご希望の方は本校までお問い合わせください。

活動だより

ホームカミング・デイ

S 47年卒 佐々木郁子

(遠野)

恒例の我が母校、向丘高校の文化祭、向陵祭は、今年も九月二十三日、二十四日と二日間、盛況のうちに終了した。

同窓会としてはPTAと相部屋で、先輩である切り絵作家の稲葉祐吉氏のご協力により、切り絵展と切り絵制作の実演を行った。

切り絵展は、蔵の町として有名な福島県喜多方市の風景が描かれた作品を集めたもので、詩情のある作品の数々は多くの人の足を止めていた。また、切り絵制作の実演では、見事なカット

ーさばき
に生徒達
もさすが
プロの仕事と感嘆
していた。
向陵祭
のにぎわ
いは少し
離れた
隅の部屋
だったの



で、当初、人の入りが少ないのではないかと心配されたが、同室で開かれていたPTA主催の喫茶コーナーが人気で、そんな心配はすぐに消えてしまった。

この喫茶コーナーでは、応援にかけつけた同窓会役員達も無料でコーヒー、紅茶などをごちそうになり、ともすれば居所のない思いをしがちだった向陵祭を、ぐっと身近に感じさせてくれた。

また同じ部屋に、先生方の書道・絵画なども展示されていて、先生としてのお顔とは別の一面を知ることができたのも思い出深い。

ホームカミングの座談会としては、校長先生、教頭先生、PTA会長の家村氏、副会長の山口氏、榊原氏、同窓会より三田、杉浦、桜井、梅田、笹山、稲葉、佐々木の十二名が参加して、二時間程の楽しいひとときをすごした。

後夜祭として体育館で開かれていた生徒達のコンサートを聞いて、しばし高校生だった遠い昔が臉によみがえってきた。すっかり新しくなった校舎で、昔の面影は少しもないけれど、この同じ場所に確かに流れていた時間をなつかしく思い出した。

最後に、同窓生であり、切り絵作家の稲葉氏が向陵祭での売り上げを全部、PTAと同窓会に寄付して下さったことを附記しておきたい。

三年A組 クラス会報告

S 34年卒 川合美津子

(堀切)

去る三月十日、二十一世紀をむかえ、二十年ぶりに三年A組のクラス会が、新宿の「乃の木」で開かれました。

現在員五十一名中(住所不明十名)約三分の二の二十九名の出席という盛会でした。

久しぶりの事ですので、お顔がすぐに思い出せない方も居られました。が、だんだんとお話して時間がたつにつれ、すっかりあの向丘高校時代の顔になり、お互いにバカを言ったり大変楽しく語り合い、三時間半があつと言う間に過ぎました。

皆、素敵な年の取り方をした良いお顔が印象的でした。

最後に校歌を全員で大合唱し、再会を約束し閉会しました。

「旧校舎の香り残す友と共に」

S 36年卒 根岸 健

「C組」クラス会

今年、年号を昭和に置き換えれば七十六年。私たちは三十六年卒だからあれから四十年という訳だ。

その年生まれた子供も「不惑」と思うと四十年というのは重い歳月なんだと実感する。さらに、母校は平

成九年に五十周年を迎えたばかりだから、我々は同窓生の中でもいつの間にかかなりの古株になっていたのだ。

さて、昨年の二月十九日、そんな古株「C組」のクラス会が、錦糸町の「小料理三四郎」で催された。

今回の幹事は海蓋陸治君。名前もデカイが仕事もデカイ。あのアクアラインの開通にも関わった。

降旗経雄先生をはじめ、参加者は十八人。男女同数の「フイーリングカップル九対九」だ。もちろんカップリングなど成立しなかったが、今回目立ったのは坂本一介君。現役時代の存在感がうそのように卒業後はプツリと音信を絶った、歴代の幹事泣かせという人物だ。その割には昔のまんまの顔であつさりと登場、熊坂正博君も久しぶりだ。会うなり、「おまえ誰だ」という。なに、君だつておデコから下以外は別人さ。

時節柄というか、年相応というカリタイア組も二、三いた。でも、発展的な物だったようで暗くなるような話ではない。「会社を起こした、順調だ」とか「脑梗塞やつちやつたけど、後遺症はない」とか、話題はいろいろ書き尽くせないが、古希を四歳超えられた降旗先生の声のツヤ、ハリは長年続けてこられた朗読ボランティア活動の賜物のだろうか。酒席の二時間少々というのは本当に短い、この原稿スペースも限りがある。前回の幹事(田所実、伊沢端枝両氏)から送られた陽光に輝く新

生母校の写真を、やや複雑な思いで眺めつつ、旧校舎の香り残す友と別れたのでした。
尚、次回の幹事は熊坂正博、河野洋子のご兩名です。

熱い同期会

S41年卒 尾道 郁代 (大橋)

同期会も再開して三回目になると毎回出席して下さる方がふえてきて三年ぶりの再会を喜びあうようになりました。

七月一日(土)、遠路はるばる広島からかけつけて幹事兼、司会を押しつけられてか、すすんでかやつて下さる奇特な方のお陰で池袋サンシャインシティホテルでの同期会は素晴らしい会になりました。

この夏の猛暑の始まりとも思える暑い昼、室内は快適な涼しさとなつた。広い空間五十八階の展望の良さ：お料理の種類も量も味も申し分な



於 サンシャイン58階「トリアノン」

く、食べたりお喋りしたり、時間を延長してもらったにもかかわらず、あつという間の三時間半でした。

毎回ご出席して下さる長田先生・菅野先生・深井先生・小野先生・齋藤源三郎先生、お忙しい中有り難うございました。そして同窓会の小川力洋会長もご参加して下さいました。会に一層の花を添えていただきました。

会の進行は抽選会で盛り上がり同期生の方から提供して下さいました品が色々あつて参加者全員におみやげがありました。私は大当たりでプリンホテルの宿泊券をGETしました。e人と一緒に泊りました。又、次回が楽しみです。

四年に一度の同期会

私は、これで幹事になった

S47年卒 都留みどり (大原)

そもその発端は、平成六年息子の高校入学に際して、私にもこんな年頃があつた事を思いだし向丘時代が懐かしくなり、仲間三人で同期会を企てたのが始まりでした。卒業以来二十二年何の前触れもなく、突然かの有名な家庭用印刷遊具機器を使い、気軽なパーティーとして呼び掛けました。たいして集まらないだろう：との意に反して、四十七名もの

参加でした。すごい大盛況・大好評で、特に先の事など何も考えずに実行したにも関わらず、会の盛り上がる中、次は四年後という約束まで決定し、これはもう、乗りかかった船・建てかけた家・食べかけた飯：てな具合で、よっしゃー 万年幹事は、この私だ!! とになりました。

同期会に一歩足を踏み入れると、誰しも向丘時代に戻ります。しかし、ウン十年の月日が肉体に激しい変化をもたらししている場合も多々あるので、受付で向丘時代の「お名前シール」を服に貼り付けてもらい、呼び合う名は懐かしい名前、そのシールの名と卒業アルバムの大拡大コピーにて、あの人誰? の疑問を解消しながらワイワイ・ガヤガヤ：うるさいけど楽しい、楽しいけどうるさい。

そんな盛り上がりの中全員で次の同期会の日取りを決め、各人その日を心に刻みつけ、又、それぞれの生活の場へ帰って行きます。

この同期会は概ね四年に一度です。今年私達がタイムトンネルを潜り向丘を旅するのは、西暦二〇〇四年・オリンピックと同じです。この同期会発足の要因となつた愛する息子も結婚する事になりましたが、例え、ばーちゃんになつても私は元気でいるかぎり幹事をやって、幹事をやる為いつまでも元気にやっていくつもりです。

(11頁にクラス会写真あり)

MFLSを知っていますか

S51年卒 関本 知恵 (国広)

7代目副部長

正式名称《向丘フォークソンググループ「ズンサエティー」》……フォークソングクラブです。何と高尚なと感じたでしょうか? 嫌々ともいい加減で不思議な集団なのです。

時は、一九七〇年、政府の、七十年安保・政策に反対した全国の学生たちがデモ、集会などの反政府運動の真っ只中にいたころ、運動の中心東京大学のある向丘・白山では、大学だけではなく地域にもその影響は有つたそうです。当然それは、我が高校にも影響し、安全に登校出来ないということでも休校・休講、落ち着いて勉強する権利を奪われたそんな時代があつた……

そんな時代の一人の高校生(初代部長)が教室で一本のギターを弾き、歌を歌った。(語り継がれているその曲はGreen Back Doll) その歌声とギターの音色に誘われ集まって来た仲間が私たちのルーツ……

今では、時代の流れで殆ど懐メロ状態のフォークソングとしてマスメディアでは語られ、クラブその物も十七代ぐらいでなくなつたとか。

当時、文化部なのに休みが無く、夏の合宿で長野まで行ったこと。歌を歌うだけでなく、「思っていた活動と違う」(グループ演奏だけではなく中心はsing outといつてギターなどの伴奏

に合わせ全体で一つの歌を歌う活動」と、「クラブをやめる」とか「やめるな」とか何だかよくもめていたので、時々ギターを抱えてやって来るこわいOB・OG達に連れて行かれた(本当はおごってもらうために行つた)パイオランドで《連帯感》というものを懇々と説教され、負けじと「時代が違うの何の」と何やら対等に討論を繰り返して居ました。

そんな私たちの連帯感も本物だったようで、あんなにいい加減だったやつらも事あるごとに集まり、先日、OB会の新年会を開き久し振りに「大笑い」「爆論」そして歌を歌い、公式ホームページまで作ろうという勢いです。

そして昨年集まった時に「もう一度みんなで歌を歌いたいね」という話が浮上、今回の新年会で確認されました。しかしながらそれぞれ自主的にカラオケで自慢の喉をいたぶって来た面々ですが、《昔の譜面を見ると字が小さくて》とメガネを掛ける人もちらほら(笑) 練習もさることながら、まず私たちのルーツである「がおか」で発表出来たら……と、今年の同窓会でアトラクション参加させて頂くことになりました。同窓会参加の皆さんにはお聞き苦しくご迷惑お掛けしますが、あそころ一Aの教室で耳にタコが出来るほど歌を聞かされ、とうとう歌を覚えてしまった皆さん! 無料であるこのころの歌が聞けるうちに是非覗いてみてください。《祈念・幸運》

思い出・思い出

『男女共学第一期生』の思い出

S 27年卒 五條 彰久

第四期生が入学(昭和二十四年)した翌年、私は疎開先の静岡から向丘に転入して来た。その第四期生が卒業してはや来年五十年を迎えることになる。あつという間の半世紀であった。

たつたの二年間の向丘高校の生活であつたが、当時の思い出は、実に鮮明に私の心にネガとして残されている。それは、人生で一番多感な年頃の残像であり、そこには、「男女共学の第一期生」という胸ふくらむ未知の舞台が広がっている。私が転入してまず驚いたのは、女生徒ばかりだったことだ。それもそのはず、向丘は、女学校が合併してできた高校で、男女共学になったのは四期生からである。七クラス中、男子がいるのが三クラス。全体の約一五%だった。そのため、授業では男子が一人や二人になることがしばしば。

家庭科では女子が裁縫をしているとき、私は男生徒と二人でノコギリとカナヅチを持って、ボロ校舎の各教室の破けた教室のベニア板の壁を補修して回った。数学の時間は、私は女生徒の中でただ一人だったため、よく先生に指された。ある日の放課後、同じクラスの良いT君(故人)から、白山神社に誘われ、他クラスの女生徒Sさんを紹介されたことがあつた。Sさんが君に好意を持っているから友達になってやってくれとT君に言われた。田舎から出て来たばかりの私は、顔は真っ赤になり、胸はドキドキ。あまりの緊張で、何をしゃべったらよいか分からず、困惑したことがあつた。ある先生は、わざわざ男生徒を女生徒の家まで連れて行って、仲を取り持ってくれたこともあり、楽しい時代であつた。

当時アメリカの教育者が、「やはり、女だけ男だけの学校で学んだ人は、人格が共学だった人よりも劣っている。人間は最初二人で作られているのだから、二人で勉強してはじめて完全な人格になるのだ。」とYMCAの座談会で述べられ、意を強くしたことを覚えている。

しかし、恋愛問題には多くの先生方は神経質になっていた。われわれのクラスが、卒業お別れ会でマックス・ハルベ原作『青春』という劇を上演することが職員室で話題になった。すると先生方が、内容が心配になり、入れ替わり立ち代り練習していた教室に偵察にきた。しかしストーリーがドイツのクラシック恋愛劇であつたため、問題もなく本番を迎えることができた。ただ、私はフィナーレでヒロインを抱きかかえる役だったため、胸が破れるほど緊張した。

このような、試行錯誤の男女共学の経験をつかしく思い出さすため、来年は『卒業五十周年記念同期会』を盛大に開催したいと目下検討中である。

「昔のことを思い出し、大声で笑う

ことにより、脳を活性化する。」これが同期会の効用であると思つている。

向丘の思い出は、五十年経つて程よく熟成され、脳の活性化、若返りの何よりの特効薬である。

『愚か者にとつて、老年は冬である。賢者にとつて、老年は黄金期である』

向丘の思い出は、きつとわれわれを賢者にしてくれると信じている。

新年を迎えて

S 31年卒 梅田 博之

毎年、正月には気分が新たにになり、その年のやりたい事、希望等描くが特に今年は二十一世紀という新しい世紀となり、より一層気持も新たに新年を迎えた。そして二十一世紀という節目でもあり、例年より強く思いを新たに、過ぎてきた人生をふり返ると共に、これからの人生を思った。

まず何といつても云うまでもなく健康でいたい。自分の体の健康の管理を常に心掛け、いつまでも元気で暮らし永生きをしたい。

次に、充実した楽しい人生を送りたい。ただダラダラ生きるのではなく実のある、誠実な生活を続けたい。そして、やはり人生を楽しく過ごしたい。人生には、勿論苦しい事もあるけれど屈することなく頑張つて生きていきたい。

新年、特に新世紀を迎え、思つたままに綴りました。

夏の行事の思い出

S31年卒 川端 春生
(三橋)

一九五六年三月に向丘高校を卒業して、今年で四十五年になる。「月日は百代の過客にして行きかう年も旅人なり。舟の上を生涯を浮かべ、」
「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、」木造校舎で机に向かい、芭蕉や平家物語を身近に感じたのが、つい昨日のこのように思い出される。

半世紀近い昔の事である。しかも、決して真面目な生徒であったわけではない私が、高校時代の一つ一つの出来事を鮮明に覚えているわけではない。断片的に出てくる懐かしい思い出を、何とかまとめたいと苦しんでいるだけである。
当時、夏の学校行事に、「臨海学校」や「林間学校」があった。家族や個人でレジャーを過ごすことが、まだ少なかった時代だったので、結構人気があったようだ。

一年のときに、「臨海学校」に参加した。千葉県勝山の海岸だったと思う。内房の静かな海水浴場だった。沖約一キロのところは無人数島があり、上級生と一緒に泳いで渡り、ちよっと探検したりして過ごした。三年生が参加していた、生活全般について先生の指示にしたがってリーダーとして下級生の行動を規制していたように見えた。みんな大変に仲良く楽しい行事だった。学

校にはプールが無く、もし泳げない人が参加するときはどうするのだろうかかと心配した。小石川高校のプールで、二回泳ぎに行ったのがその準備だったような気がする。二泊三日ぐらいたとそう思うが、ともかく楽しかったことだけが残っている。

「林間学校」に参加したのは二年のときだったと思う。福島県猪苗代湖畔での行事だった。磐梯山登山や五色沼の散策などの行事が一杯ある思いで深い内容だった。さて、誰と誰と一緒にいったのか、どの程度の楽しさだったか、もう少し詳しく説明したいのだが残念ながらあまり覚えていない。それは、校庭の片隅にあった若竹寮でのバレーボール部の合宿や練習に起因していると思われる。体育館が無くグラウンドの真中にコートを作り、炎天下で泥だらけになって練習を行った。苦しかったけれど仲間たちとの楽しい時間があったので、強烈な印象として残っている。「林間学校」も楽しかったと思うけれど、バレーボール部での毎日が、他の記憶を奪ってしまったようである。

「臨海学校」や「林間学校」など、危険と背中合わせの行事に労を惜しまず、子どもたちの悪さに対して寛容だった先生方の懐の深さが懐かしき思い出される。先生も生徒も、目的に向かつて一生懸命に取り組むことができた、今思えばなつかしい時代だった。

ひろば

「切り絵作品展」に学ぶ

S30年卒 稲葉 祐吉

三歳の時、自閉症と診断され、人間関係が苦手な青年が、一度は仕事にいたが、すぐにやめ長続きせずいたが母親の考えで切り絵なら続けられるだろうと、山口県立宇部養護学校高等部三年の時、切り絵に出合って十年ほど前から創作活動を始めた人の切り絵展を三越本店へ観に行ってきた。

障害を持つ人達の切り絵にかぎらず、一生懸命生きる姿は多々耳にするが、スバラシイ人達がいます。

切り絵展には、短い実演もあります。年配の方々が多く、細やかに描写された絵を見て感動していました。すばらしい才能でした。作風は小生に似ているが、時間をかけて（一枚仕上げるのに三ヶ月かかる）制作するのでもっと細やかでした。小生も負けてはいられない思いがし、作品大小合わせて六十点ほどの絵を何度も何度も観てまわった。母親いわく、小生の名刺を観て文字まで切ったのですか？黒一色ついていすね、お顔を切ってお入れになさつたら……。

実演をのぞいたり、絵ハガキや出版物を見たり作品は三、四回まわって観賞する。上には上がいるものだなあとつくづく思い知らされた一日でした。

お礼のことばの中に、彼は「きりえの仕事がうれしい、みんなに見てもらうとき、もつとうれしい」と最初に切り絵の個展をした時の言葉だそうです。切り絵を仕事として始めるまで、長い道のりがあり、彼と一緒に思い、悩み、苦しみました……。

人と人との出合いは切り絵の様とは、一枚の絵はずーと続いていて、切り離れていません。純真で、無心に一刀一刀力を込めて切り込んでいく彼の姿を見ながら、この絵は彼の心なのだ、ことばなのだ、と思います。ことば少ない彼の心が切り絵の世界の中で語っている事を感じていただけましたら幸せに存じます。

「光と影と心」とむすんでおり、いつも見守る母親の言葉でした。

汐留駅の今昔

S31年卒 三田 昌男

汐留駅といいますが、明治五年に新橋から横浜まで鉄道が開通した発祥の地である事は皆様ごぞんじでしょう。昭和の戦前、戦後にかけて貨物の輸送がふえて日本一の貨物ターミナルになりました。

昭和四十年代に入りコンテナ輸送や自動車輸送がふえて貨物列車による大口輸送がへり、貨物量の取扱も主役をうばわれました。昭和六十一年に一五年の長い汐留駅の歴史を終えました。現在その土地は再開発され、八街

区に分け、オフィスビル・商業施設・住宅などを併設する複合都市になります。

平成十二年より電通の四十八階のビル(二一〇m)を始め多くの高層ビルの建築が始まっています。日本テレビ、共同通信社という情報発信企業が三社も集まります。又昔の汐留駅の入口近くに汐留AMタワー四十三階(二一五m)が建ちます。

平成十五年頃には新宿の様なオフィスビルが建ち並び、大きな一つの街が出来ます。人口もふえますので隣の銀座、新橋も昔の様な活気のある街になるのではないかと楽しみにしております。

汐留駅構内に私が定年まで勤めていた会社がありました。モノレールのユリカモメが開通した頃は、整地の時に遺跡が発見されて長い間発掘作業が行なわれておりました。貨物の輸送基地として発展した汐留駅は終り、情報発進基地として再開発されます。

ペンシA190との旅行

S32年卒 櫻井 弘清

年末三十一日から正月三日まで猪苗代を旅してきました。三十一日はなんなく宿まで行きましたが、北国ならではの雪による風情を満喫して来ました。タイヤはノーマルタイヤまさか元日、二日と多雪で、二日間七〇〇八〇cm積り、三日の帰りにはもっと積る

と思い、二日のうちに山の中腹より、

町に降り市役所の庭に駐車して置いたので三日帰京のため、雪道を走り出した所スリップしました。国道四九号に出るには磐越西線の陸橋を昇らなければならぬし中山峠を越え、磐梯熱海の高い所にある陸橋も走ってこなければならず家内は心配するし、あな

たと心中はご面よと云われましたが、ペンシA190は他のクルマにくらべ乗り心地や発進具合などとても素晴らしい！と絶賛しました。それはノータラの左の所にWとSのスイッチが付いていてW(WINTER)の時に使うと自動的にギアがセカンドから急発進にならず雪道でもナメラカに、進んで行くことが出来るとの事でした。我々が郡山のINTERに入る時この入口から、郡山JCTの間で何重もの雪に依る衝突事故発生通行止になりました。今年も小生は幸運な付きがあり、ドライブはまことに快適そのもの。

燃費も大変良くガソリンを満タンにして行った所、東京マデ給油もせず帰宅しました。総走行は五〇〇キロでした。

皆様の車購入時はご一考いただければ幸いに存じます。

ペルーの子供達のひと

S32年卒(D組) 佐藤 一元是

向丘に在学の昭和三十年頃とは違って、今日では海外観光旅行も一般的に

なった。

一昨年になるが、定年退職を機に、私も南米ペルーの観光ツアーに参加した。古代文明や遺跡に興味を持つ自分には、ナスカの地上絵、インカの首都クスコ、城塞サカサイワマン、空中都市マチュピチュ、チチカカ湖を巡るコースは魅力的だった。

「マチュピチュ」は、標高二、二八〇メートルにある。鉄道アウトバゴンの終着駅でバスに乗り換え、発見者の名に因み「ハイラム・ビンガム道路」と呼ばれる、つづら折りの標高差四〇〇メートルの山道を上った。五〇〇年以上の隔たりがあり、地球の反対側にある古代遺跡に足を踏み入れた感激に浸っての帰路のことである。往路と同様にバスはつづら折りを下るのだが、バスが初めのカーブを廻ると、素足の少年がバスの行く手に立って手を振り、見送ってくれた。次も、その次も同様で、くり返しは数回にもなった。

麓の駅に着くまでにバスが拾ったが、つづら折りを下っている間に、少年は急坂を直線的に駆け降りて、バスが曲がる毎にその前に出現するのであった。少年の目的は、観光客からの心付けにあり、「バイバイ・ボーイ」と呼ばれることを知った。それにしても相当の脚力で、鍛練すれば一流のランナーになるのではないかと思った。

インカの初代皇帝が降り立ったとの伝説がある「チチカカ湖」では、トトラ(葦)の浮き島に生きるウル族の生活様式を垣間見た。漁労やジャガイモ栽培で生計を立てていると言う。トト

ラ造りの住居が多いが、大きな島には教会や学校もあった。木造の小学校は、特別な工夫で季節的な増水の際には浮かび上がるのだった。我々の遊覧船が着岸すると子供達が寄ってきたのは、民芸品などを売るためだ。私も、彼らの生活ぶりを描いた小さなボール紙の粗末な絵を一少女から買い求めた。彼女は嬉しそうだった。誘うと一緒の写真に入ってくれた。帰りには十人程が集まり、誰に教えられたのか、我々が日本人であることをどうして知ったのか、上手な日本語で、「咲いた、咲いた、チューリップの花が！」と合唱してくれた。奇しくも、利用した湖畔のホテルの名は「ゴールデン・チューリップ」だった。一生を通じて自分の写真を見る機会が始まぬと言った彼らのために、合唱姿の写真を送り届けた。

終戦直後の日本の子供達と重なる部分もあった、二十一世紀のペルーを担う子供達は明るく元気だった。

成人式

S34年卒 石山彼早子 (佐伯)

テレビ、新聞等で報道された成人式の有様を見て、驚きあきれました。新成人のマナーの悪さは云うに及ばず、その若者達を育てた親にも責任があるのではないかと思います。大人が若者を適切に導くことが本来の姿であるはずなのにその大人が自分の子ですら、

「叱れない」と云われています。嘆かわしい現状です。でも心ない一部の若者達の行動が多勢の若者の代表ではないことも事実です。物事をきちんと弁えてボランティア、未開発の国での支援、身体障害者を持っている人達に対する活動等に従事している姿は頭の下る思いです。そういう人達にとつてもこの度のマナーの悪さは苦々しい思いを残していることでしょう。

相手の立場に自分を置きかえて物事を判断する能力は集団の中で学んでいくことなのに、けんかがいじめに変化し庇い合う心が失われている現実はどうしてなのでしょう。私の子供の頃は学校から帰ると暗くなるまで友達と遊びの中から自然と会得したのが今は塾通いで遊ぶ時間がないということ。なにか大事なことが忘れられているようです。

「成人の日」雑感

S 36年卒 田中 正明

数年来、「成人の日」の式場の有りが衆目を集めている。整然と実施されている会場が少なくないと思われるが、中には不心得な新成人もおり、マナーの悪さが報道されている。就中、今年高松市で行われた成人式場では、クラッカーを打ち鳴らし、殻を投げつけるなど式の進行を妨害したとして、主催者の市長が告訴し逮捕者を出すに至った。

戦後制定された新憲法では、満二十歳に達した若者をもって成人と見做し、「成人の日」を国民の祝日と定め、門出をこぞつて祝福している。言うまでもないことであるが、この日を迎えることは社会から大人として承認を与えられたということ、新成人はこの日以降選挙時に一票を投ずることが可能になるのを始め、生活領域が広がることとなる。成人の本意は、心身の発育を遂げ、相応の技量を備え、それらの責務を果たすことの出来る者を意味している。

因に、成人ということばは、一般的には戦後用いられるようになったもので、このように成長の過程に何らかの基準を設けてそれまでの意識や生活との境とし、以後大人として遇しようとすることは、古くから行われて来たことであった。即ち、成人とほぼ同一の概念を持つて使用されて来たことは一人前という用語であり、長い間多くの村落社会で実質的に年齢相応の仕事が出来るか否かといった規範に基づいて判断を重ねていたのである。

今これらの具体的な内容及びすることは控えるが、翻つて一瞥してみると現代社会の状況は如何であらうか。先に記した愚行も、それを映し出した世相の一つであらう。高松市がとつた対応については多方面から賛否の意見が寄せられているとの報であるが、同市の意図に一副戒的な意味が込められているか否かは措くとして、地域社会の協力体制が稀薄となり、その帰結として社会が持ち来つた規範力や教育

力の低下が叫ばれるようになって久しい昨今、成人とか大人、一人前ということの実質について冷静に考えてみることは、付言すれば在来型の社会が大きく変質(崩壊と捉えている人もいる)を遂げつつある今こそ、有効なことではないかと思われるのである。このよくな未成熟者が多数を占め、成人としての実質を真に備えるために長い期間を必要とするようになると、あるいは「二十歳」をもって成人と規定するなどといった法が制定される日が訪れるかも知れない。冗談はともかくとして、試験されるようなことのない規範意識と判断力を持ち、行動することが出来る成人を育て上げるよう、高等学校と大学の教育現場に些かなりとも関わりを有する者の一人として、その責務の大きさを痛切に感じている昨今である。

同窓会での出会いに感謝

”パリのカフェテラスで思うこと。”

S 40年卒 山田 小一

仕事から外国人とのつき合う機会に恵まれある時、大阪の人から松下とは旧年来的につき合いで信頼できるフランス人と紹介され何度か、彼の自宅まで足を運んだことがあった。そのDr.K氏は自宅をジュノーネープにかまえ夏になるとセカンドハウスのコートダジュール(南フランス)に移動する典型的

な欧州人であった。三年前に初めて南フランスのコートダジュールのセカンドハウスに招待された時、自分の世界観が変る大きな感動を憶えた。とにかく日本人は高所得だから裕福とは大きな誤りで歴史の重さからくる大きな違いを改めて感じさせられた。そのセカンドハウスとはまさに映画のロケに出てくるすばらしい豪邸でホテル並みの個室が八つ、プール、テニスコート等すばらしいファシリテイの一言。まさにモナコ、カンヌ等は世界の富豪の社交場だ。全ての物が新鮮に見え、全てに圧倒され自らの世界観の狭さを感じた一瞬であった。

Dr.K氏は真の親日派であるゆえ日本文化を熟知した人で日本人からの招待を心良く受けてこの正月に茅ヶ崎の自宅に来てもらった。とにかく日本人は接待用の料亭には招くが自宅に呼ぶ習慣はない。彼等から見るとビジネスライクの表面的な付き合いだと感じているのだろう。今回初めて外国人を自宅に招待して初めてわかったのは家族との付き合いがあつてこそお互いの信頼が生まれるのだとひしひしと感じた。この事をきっかけに妻は外国の文化、習慣をより多く知りたい。それには外人と話せることが必要と感じ英会話レッスンを初めたようだ。

人との出会いはちよつとした所から思いがけないきっかけを手にするものだ。特に異国人とのつき合ひは思いにもよらないことが多く自分のポジションを見つめ直す絶好の機会だ。仕事が

ら先方の会社のトップと合うことが多い。人種、風俗、文化等を考慮した付き合い方を数多く学ぶことが多い。機会があればいずれかの時にお話してみたい。

二十世紀もあともう少しで終わろうとしている、パリのサンジェルマン通りのカフェテラスでワインを片手にそつとベンを置いた。後で聞いて分つたのはここは当時サルトルが通つたカフェテラスとか：本当にパリの街はずばらしい。

パリにて (二〇〇〇年十二月)

挑戦 — 修士論文 —

S47年卒 三輪 京子 (成田)

皆さん、お久しぶりです。私は現在、文化遺産に登録されて五周年目の姫路城を誇る姫路に住んでいます。

この地で英語塾を経営して十四年になります。幼児から高校生まで英会話と英文法を教えています。楽しく、しかし厳しく、そして、自分自身、brush up. することを忘れずに。

二年前、文部省が日本ではじめて通信制の大学院開設を認めたので、日本大学大学院総合社会情報研究科に入学し、文化情報を専攻して、イギリス文学、主にシェイクスピアと、日本の能を中心に比較文学を勉強しています。指導教授は、シェイクスピア劇を能

風にアレンジし、英語で上演された人で、その講義は、とても興味深く、院生は、ゼミの合間に仕舞いと謡いの手ほどきを受けました。私は、能にすっかり魅了され、姫路在住の無形文化財でもあられる、凄い先生を御紹介していただき、月三回、謡いをお稽古しています。心の底から声を出すのは健康にいいです。

日本には素晴らしい文化がたくさんあります。それらを知らずに死んで行くのは勿体無いです。修士論文は、ジェームズ・レッドフィールド氏の『聖なる予言』を取り上げました。宇宙のエネルギーを理解し、それをどのように生かすかがテーマです。精神世界のことには、あまり興味があつたのですが、この本に出会って考えが変わりました。今、『神との対話』を読んでいます。「あらゆる生命の目的は一つしかない。出来る限りの栄光を体験することだ。何者になりたいかを考え、そうなるうと決意して努力しなさい。」と書いてあります。皆さんはどう思われるでしょうか。

一冊の本

S47年卒 森 正樹

視聴覚室に子供たちの歓声が響く。ドライアイスの煙を幕として、居丈高なライオンを彫刻なカエルに変えられた時だった。これは、地域の主婦達のボランティアによる指人形の公演の一

俳句の世界へのお誘ひ

- ☆ 四季の移ろひを・・・
- ☆ 心のひだを・・・
- ☆ 折々の想ひを・・・

俳句に託して見ませんか？指導して下さる先生は、向現丘の同窓生（S31年卒の佐藤（旧姓安藤）令子さん）在『檜 紀代』と号され、目下活躍中の女流俳人です。

遠矢俳句《沙羅の会》俳句会

指導 檜 紀代 月刊俳誌「遠矢」主宰
 (俳人協会幹事・NHK学園講師)

場所 中央区立佃区民館 Tel 03-3533-6951
 (営団地下鉄、都営大江戸線『月島』下車4番出口すぐ左側)

日時 毎月第2水曜日 pm 1:30~3:30
 (15分ほど早めにおいでください)

兼題 当季雑詠 3句
 題費 当日出題 1句
 会費 ¥1,500 (欠席投句も同じ)

初心者大歓迎 どなたにも始めてがありました。経験者もご遠慮なくどうぞ。ご連絡お待ちいたしております。

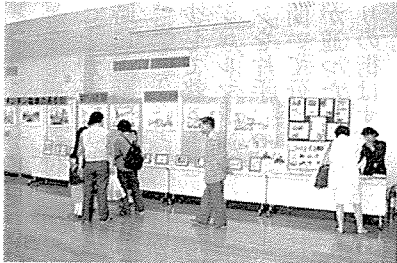
山本 (福永) 越子 8期 (S31年卒)
 〒104-0051 中央区佃2-15-10-308 Tel 03-3532-7489
 E-mail fwiv5679@mb.infoweb.ne.jp

場面である。私が、指人形劇にたずさわるようになって約六年がたつ。この間に書いた脚本は九作で、演出、小道具の作成も手懸け、それぞれに思い出もある。そもそも私が人形劇を始めるようになったのは、四才の男の悲惨な交通事故を取り扱つたからである。私は、交通課の警察官としてこの事故を取り扱つたのである。交通事故処理を日常業務としている私にも、子供の交通事故事故は心が痛んだ。子供の交通事故を無くすにはどうしたらよいか、子供に分かりやすい交通安全教室は出来ないものかと考えた。そして思いついたのが、勤務する管内

の主婦を募り、指人形による交通安全教育のボランティアをしてもらうことであつた。全く、仕事とは無縁で、かつ演劇等の知識のない私にとって、人形劇を始める事はまさに手探り状態であつた。また、当然勤務以外の時間を使わなくてはならなかつた。約三十年前、向丘高校に在学中の私は、まじめな生徒とは言えなかつた。授業をさぼり、一人で屋上で小説を読んでいる時もあった。この時読んだ、井伏鱒二の「多甚古村」が今の私に影響を与え、この職業を選ばせたのかも

催物・総会・懇親会あれこれ

平成12年4月29日 (みどりの日)



切り絵作品展

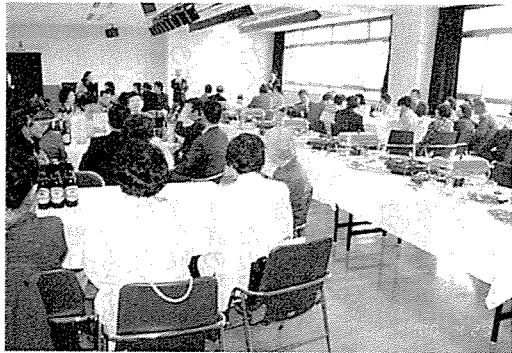


マンドリン演奏会模様



総会会場

● 懇親会各テーブル (順不同) ●



会場で挨拶する小川会長



清水教頭・北村校長・桜井幹事長
水町・小野・板井・小川会長・会津・渡辺・水山先生方



事業報告

平成11年4月1日～平成12年3月31日

I 役員会(幹事会)

- 平成11年4月3日(土) 総会準備会 (於 北区東田端出張所会議室)
平成11年9月3日(金) 総会の反省及びホームカミング講演会の打合せ (於 北区東田端出張所会議室)
平成11年12月6日(月) 会報やよい10号誌企画会議 (於 北区東田端出張所会議室)
平成12年1月24日(月) 会報やよい10号編集会議及び新年会 (於 北区東田端出張所会議室/於 台南)

II 総会記念シャンソンコンサート開催

- 平成11年4月29日(木) 出演 広瀬 節子氏 (本校卒業生) が協力。ピアノ伴奏にて80分程熱唱。一般入場者も含め約100名が参加。(於 母校6階ホール)

III 総会・懇親会

- 平成11年4月29日(木) みどりの日 客員も含め65名程が参加。総会では内容等ご一任頂いておるので参加者が少ないのか?大

IV 研究活動

- 平成11年9月3日(金) 総会写真の仕分け、やよい9号戻り封筒の整理。約600通。
平成11年9月26日(日) ホームカミング講演会 “健康と骨”と題し、谷嶋二三男博士(本校卒業生)に依頼。30名が聴講した。(於 母校B棟視聴覚室)
平成12年2月28日(月) “やよい”校正会
平成12年3月10日(金)
平成12年3月17日(金)
以上3回、数人で行う。住所判明者・客員等、総数11,328通を業者依頼にて在校生、現教職員宛に800部配布した。(於 東田端出張所会議室)

V 渉外関係

- 平成11年4月9日(金) 母校入学式。小川会長が列席。(於 母校体育館)
平成11年9月26日(日) 向陵祭に役員多数が母校訪問。
平成12年2月5日(土) P T A コンサートに三田副会長が出席。
平成12年3月1日(水) 切り絵作家稲葉祐吉氏宅を小川会長が訪問。作品展等の承諾を願った。
平成12年3月7日(火) 母校卒業式に小川会長出席。来賓代表として祝辞を述べる。

VI 振興助成

- 13期(S36年卒)代表幹事 川端 猛氏のクラス会報告45名に対し通信費を助成した。

●平成11年度会計報告及び平成12年度予算案●

都立向丘高等学校同窓会 平成12年3月31日現在

Table with 3 columns: 11年度決算金額, 12年度予算案金額, and 支出の部. Rows include 収入の部 (入会金, 年会費, etc.) and 支出の部 (交通費, 印刷費, etc.).

上記の通り収支報告申し上げます。平成12年4月29日 同窓会会長 小川 力洋@ 会計 荒川 雅司@ 会計 千田二仁江@ 会計 尾道 郁代@ 監査 石山彼早子@ 監査 寺村 光司@

(会報委員会)

あ と が き 今会報には多数のご寄稿をありがとうございました。本年度ある紙面の故、区分等ままならぬ点、ご了承下さい。本年三月卒業生総数一六、二〇四名中住所判明者全

Table with 2 columns: 訃報 (松本 健, 門倉 常治, etc.) and 謹んで哀悼の意を表し、ご報告のあった方々のお知らせ申し上げます。